

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第2期高千穂町まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

宮崎県西臼杵郡高千穂町

### 3 地域再生計画の区域

宮崎県西臼杵郡高千穂町の全域

### 4 地域再生計画の目標

本町の人口は、昭和25年をピークに一貫して下がり続け、令和2年では、11,642人（平成27年比8.7%減、令和2年国勢調査結果）となっている。住民基本台帳によれば、令和7年（令和7年4月1日）は10,658人となった。また、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（平成30年3月推計）では、令和47（2065）年には、4,075人まで減少する見込みとなっている。

年齢3区分の人口をみると、年少人口は減少し続けており、令和2年では1,326人（平成27年比12.6%減）に、生産年齢人口も令和2年では5,296人（平成27年比15.8%減）となっている。

一方、老年人口は一貫して増加し続けており、令和2年では5,020人（平成27年比1.5%増）と、総人口に占める割合が43%を超え、総人口の減少と少子高齢化の進行に伴い人口構成が徐々に変化していつている。

自然動態についてみると、本町は、死亡数が出生数を上回り続けている。死亡数に関しては平成25年までは200人前後であったが、令和6年度では231人である。

一方、出生数に関しては平成23年までは100人前後と横ばい傾向であったが、平成24年以降は、年度によって浮き沈みはあるものの年々減少傾向であり、令和6年度は52人となり、出生数と死亡数の差が徐々に広がり自然減の状態となっている。

合計特殊出生率についてみると、本町の平成 30 年～令和 4 年における合計特殊出生率（厚生労働省統計表「市区町村別合計特殊出生率」）は 1.66 であり、宮崎県（1.65）や全国（1.33）を上回る水準になっている。

社会動態についてみると、転入者数は、各年で増減があり、令和 2 年度では 335 人となっていたが、令和 6 年度には 364 人となっている。一方、転出者数も各年で増減があり、令和 2 年度では 434 人となっていたが、令和 6 年度には 417 人となっており、各年増減はあるものの社会減の状態となっている。

人口の減少は、経済・産業活動の縮小に繋がり、税収の減等町財政にも大きな影響をもたらすと推察され、医療や福祉サービスの低下を招くだけでなく、道路や公共施設等のインフラ整備も停滞し、「住み続ける」ための魅力を低下させる要因にもなる。また、地域によっては自治公民館組織等のコミュニティ維持も困難となることが予想され、共働・共助による生活の維持や地域に残る伝統文化の継承等にも大きな影響をもたらすものと考えられる。人口減少とあわせ高齢化の進行も懸念されるが、社会保障費の増大等は若い働き手一人当たりの負担増となり、勤労意欲の低下を招くことに繋がる。さらに経済規模の縮小により仕事が減れば、仕事を求めて益々人口が流出するという「負のスパイラル」に陥り、人口減少傾向に一層の拍車がかかる可能性もあり、町の活力維持のためには人口減少対策は最大の課題である。

また、近年大型化している台風等による自然災害の発生リスクの高まりや感染症等、不安を抱えながら生活しており、町民が常に安全・安心して暮らせる環境を保持していく必要がある。さらに、国際的な動向や技術の進展といった社会潮流を踏まえた新たな視点のもと、取り組みのさらなる推進も必要である。

そういった中、本町は、人口減少に歯止めをかけ、地域課題の解決を図るため、令和 3 年 3 月に、令和 3 年度から令和 12 年度の 10 カ年のまちづくり全体における指針を示した「第 6 次高千穂町総合長期計画」を策定し、その目標を達成するため、取り組む施策の基本的方向及び具体的施策をまとめた「第 2 期高千穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を 5 カ年計画で策定し地方創生に取り組んできた。

地方創生の取組は一定の成果を見せている部分もあるが、転出超過と出生数の減少傾向等は続いており、依然として人口減少、少子高齢化は進展している。

これらの課題に対し、第 2 期における課題や取り組みの見直しを行い、さらな

る推進を図るため、第2期同様「いにしえ」から「現在」、「未来」まで高千穂を「継ぐ」高千穂を「拓く」を地域ビジョンとして、地方創生の取り組みをより一層充実・強化させ、切れ目ない取り組みを進めるため、「第3期高千穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、国が閣議決定した「地方創生2.0基本構想」を踏まえ、本町における将来像の実現に向けて取り組みを進める。

【基本目標1】魅力的かつ稼ぐことのできる”しごと”環境づくり【基本目標2】  
「神都 高千穂」の魅力発信による多様な“ひと”との  
つながりづくり

【基本目標3】結婚・出産・子育ての希望が叶う”まち”づくり

【基本目標4】「高千穂に住んでよかった」と感じる”地域”づくり

### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	農畜産物生産額	4,180百万円	4,000百万円	基本目標1
	農業経営体数	951	900	
	6次産業化法人数	3社	5社	
	町内母牛飼養頭数	2,777頭	2,500頭	
	U I J ターン農業研修生	2人	2人	
	集落営農組織の法人化数	2法人	3法人	
	新規就農者数	9人 (R3~R6の累計)	10人 (R8~R12の累計)	
	林業経営体数	81	50	
	素材生産量	63千m <sup>3</sup>	66千m <sup>3</sup>	
	林業大学校入学者数	0人	2人	
	再造林率	54%	60%	

	市街地イベントでの集客数	17,500人	20,000人	
	新規開業店舗数 (宿泊施設含)	14店舗 (R3～R6の累計)	15店舗 (R8～R12の累計)	
	新規企業立地件数	1企業 (R3～R6の累計)	2企業 (R8～R12の累計)	
	新規オフィス(事務所)開設数	4件 (R3～R6の累計)	5件 (R8～R12の累計)	
イ	高千穂町の年間宿泊者数	311千人	350千人	基本目標 2
	高千穂町の年間観光客数	1,570千人	2,000千人	
	県外からの観光客数	1,387千人	1,760千人	
	観光客による消費額	9,177百万円	10,000百万円	
	道の駅来訪者数(年間)	164,075人	180,000人	
	メディアによる取材件数	60件	70件	
	SNS総フォロワー数	6,874人	10,000人	
	国・県・町指定無形文化財の保存会数	31団体	31団体	
	保存会で活動する児童・生徒数	49人	50人	
	転入者数(住基人口)	357人	380人	
	空き家紹介によるマッチング件数	35世帯 (R3～R6の累計)	35世帯 (R8～R12の累計)	
	温室効果ガスの排出量	66千t-CO2	55千t-CO2	
	行政手続きのオンライン化(55手続き)	31件	55件	
ウ	出会いを創出する事業展開件数	3件	9件	基本目標 3
	年間婚姻届件数	25件	30件	
	年間出生数(住基人口)	216人	300人	

		(R3～R6の累計)	(R8～R12の累計)	
	病後児受入施設設置	設置	設置	
	子育てサポート会員数	13人	15人	
	子育て支援施設利用者数	4,281人	3,800人	
	町政・まちづくりに対する 町民満足度	78.8% (令和7年度)	80.0%	
	「仕事と家庭両立宣言」を 行った事業所数	5事業所 (R3～R6の累計)	10事業所 (R8～R12の累計)	
	有効求人倍率(月平均)	2.17倍	2.15倍	
エ	特定健診の受診率(国民健康保険被保険者)	57.6%	65.0%	基本目標4
	人工透析者の糖尿病性腎症割合	25.0%	25.0%	
	糖尿病性腎症による新規透析患者数	0人	0人	
	高齢者の通いの場の数	10地区	10地区	
	在宅医療介護連携推進会議	開催	開催	
	町政・まちづくりに対する 町民満足度	78.8% (令和7年度)	80.0%	
	消防署・消防団との合同演習	1回	2回	
	町内在住の防災士の数	95人	109人	
	高千穂高校全校生徒数	265人	332人	
	本町から高千穂高校に進学する生徒の割合	66.3%	80.0%	
	将来地元での就職を希望する高千穂高校生の割合	13.7%	15.0%	
	公民館講座への参加者数	262人	800人	

図書貸出利用新規登録者数	90人	90人
地域行事(6地区)の年間開催数	29回	30回
提言活動・促進大会等の参加人数	121人	130人
提言活動・促進大会等開催回数	12回	13回
九州中央道の供用開始進捗率	43.0%	53.0%
高千穂町ふれあいバス(コミュニティバス)の利用者数	51,749人	55,000人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

#### ① 事業の名称

第2期高千穂町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「魅力的かつ稼ぐことのできる“しごと”環境づくり」事業

イ 「「神都 高千穂」の魅力発信による多様な“ひと”とのつながりづくり」事業

ウ 「結婚・出産・子育ての希望が叶う“まち”づくり」事業

エ 「「高千穂に住んでよかった」と感じる“地域”づくり」事業

#### ② 事業の内容

ア 「魅力的かつ稼ぐことのできる“しごと”環境づくり」事業

本町を代表する農林畜産業や観光業といった、既存の仕事における「稼ぐ力」を高めていくことで産業の活力向上を図るとともに、町内外の人が「高千穂町で働きたい」と感じてもらえるような、魅力ある仕事づくりを進める。

**【具体的な事業】**

- ・高千穂ブランドを活かした農林畜産業の推進
- ・観光と連携した市街地活性化の推進
- ・魅力ある仕事づくり・起業支援による産業振興の推進 等

**イ 「「神都 高千穂」の魅力発信による多様な“ひと”とのつながりづくり」事業**

本町の歴史や地域資源の魅力をより高めていくとともに、まちの魅力をより効果的に発信するPRや観光プログラムの開発を推進する。

また、町外から多様なスキル・ノウハウを持つ人材が本町に定着し、携わることは、本町の活力をより高めていくことにもつながる。移住者に対する様々な支援をより充実させ、誰もが本町の暮らしに希望を持って生活することができる環境づくりを進める。

**【具体的な事業】**

- ・滞在を前提とした魅力ある観光地づくりと誘客強化の推進
- ・歴史と文化を活かした地域振興・観光振興の推進
- ・移住・定住に選ばれるまちづくりの推進 等

**ウ 「結婚・出産・子育ての希望が叶う“まち”づくり」事業**

少子化の進行に歯止めをかけるため、若い世代が持つ結婚・出産・子育てへの不安を軽減するため、様々な支援を進めていくとともに、誰もが理想の子育てを実現させることができる環境づくりに努める。

**【具体的な事業】**

- ・誰もが結婚・出産の希望を叶えられるまちづくりの推進
- ・希望する子育てを誰もが実現できる子育て支援の推進
- ・ワーク・ライフ・バランスの実現により、自分らしく暮らすことができる環境づくりの推進 等

**エ 「「高千穂に住んでよかった」と感じる“地域”づくり」事業**

本町は自然に恵まれた里山の環境や、夜神楽に代表される歴史ある地域の伝統行事等、魅力ある独自の風土・地域性を有している。魅力的な地域づくりに向けては、このような地域の資源を充実させ、発信していくことに加え、暮らしにおいて便利な生活環境の実現や、日常生活を安心して送ることができるための様々なサービスの確保に努める。

**【具体的な事業】**

- ・保健・福祉の充実により幸せに暮らせるまちづくりの推進
- ・郷土愛を育む教育による高千穂に貢献する人材育成の推進
- ・地域のつながりによる魅力的なコミュニティづくりの推進
- ・快適な交通環境の実現による、まちの活性化の推進 等

※ なお、詳細は「第3期高千穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略」のとおり。

**③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））**

4の【数値目標】に同じ。

**④ 寄附の金額の目安**

1,500,000千円 ~~1,000,000千円~~（2026年度～2030年度累計）

**⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）**

毎年9月に開催する「まち・ひと・しごと創生会議」（外部有識者含む）により効果検証を行い、必要に応じて翌年度以降の取り組み方針等を決定する。検証後、速やかに本町ホームページにて公表する。

**⑥ 事業実施期間**

2026年4月1日から2031年3月31日まで

**6 計画期間**

2026年4月1日から2031年3月31日まで